

# 浜田剛爾展

京都大学西部講堂  
1989 - 1993

2013年10月17日(木)~27日(日)

基本展示：平日17時~(21日(月)は閉場)

／土・日14時~

※展示観覧終了時間は各日のパフォーマンスイベント開始の15分前まで  
※パフォーマンスイベント開始15分前に有料入場に切り替え

※10月17日(木)：17時-20時 オープニングパーティ  
(飲み物をお持ち寄りください/B.Y.O.)

performances&exhibition

記録写真とスライドショー、動画で振り返る  
浜田剛爾の TOKYO SCENE in 西部講堂。

そして、今、ここから動き出す——  
関連パフォーマンス・対談・講座 (各入場料 1,500 円)。

(会場のスペースが限られておりますので、ご予約の方に優先してお入りいただきますことを予めご了承下さい)  
予約先 = pact.kiten@gmail.com (お名前、ご連絡先電話番号、観覧プログラムタイトル、人数をお書き添下さい)

## 10月18日(金) 開演19時30分 [パフォーマンス/ライブ]

水嶋一江『ストリングラフィの誕生』

水嶋一江：西部講堂、山形県大蔵村公演に参加、浜田剛爾の影響の元現在に至る。ストリングラフィ・アンサンブル主宰、国内外で旺盛な演奏活動をおこなう。

## 10月19日(土) 開演17時 [パフォーマンス/ライブ]

武井よしみち+ブルーボウル・カンパニー'96『on the way』

武井よしみち：TOKYO SCENE 西部講堂公演に参加。カウントを素材に数々の作品を発表する。1996年より作品から生まれる音をテーマに創作活動を続けている。

## 10月19日(土) 開始19時 [講座]

宮田徹也講座「浜田剛爾論考-日本戦後のパフォーマンスを俯瞰する」  
戦後日本のアヴァンギャルド美術、具体などの勃興の中で、パフォーマンスの歴史と影響を探る論考。

## 10月20日(日) 開演15時 [パフォーマンス/ライブ]

ヒグマ春夫パフォーマンス「記憶へのこだわり、あるいは沈黙」

HIGUMA Haruo (映像作家・美術家・パフォーマンスアーティスト) 映像が介在する表現に固執し「ヒグマ春夫の映像パラダイムシフト」を継続中。他に年一度のコラボレーション企画「ACKid」がある。

## 10月20日(日) 開始17時 [対談]

及川廣信+鴻英良：対談「ヒノエマタ時代をめぐる(1984~87・1989、そしてそれ以降)」

1984年に第1回が福島県檜枝岐村で開催された「ヒノエマタ パフォーマンス フェスティバル」。その活動の軸となった二人による、当時のパフォーマンス及びパフォーマンスフェスティバルをめぐる状況を聞く。

及川廣信 OIKAWA Hironobu：アルト館主宰、after scorpion 代表、ダンサー、演出家、プロデューサー。

鴻英良：演劇批評家。国際演劇祭「ラオコオン」芸術監督(ハンブルグ)、ウォーカー・アート・センター・グローバル委員(ミネアポリス)などを歴任。

## 10月22日(火) 開始19時30分 [トーク]

長谷川六トーク「TOKYO SCENE をめぐる浜田剛爾」

浜田剛爾と長谷川六が、共に企画の中心に立って京大西部講堂で5年間にわたり展開したパフォーマンスアートフェスティバルがなしたものの、なしえなかったもの、今日に残したものについて語る。

長谷川六：1985年よりTOKYO SCENEを企画運営。先鋭たちの場をつくり、協業の中で先端芸術を模索する。

## 10月23日(水) 開始19時30分 [対談]

対談「パフォーマンスという生き方：浜田剛爾」

今井蒼泉(華道家)+奥野博(東京パフォーミングアーツ協議会 理事長)  
浜田剛爾のパフォーマンスから今、何を受け取るのか。その脈脈を探る。

## 10月25日(金) 開演19時30分 [パフォーマンス/ライブ]

成田護パフォーマンス『SOUNDANCE』

音楽とダンスをクロスオーバーしたミラクルパフォーマンス。音と身体の持続的瞬間の接触が想像を超えた瞬間美を生む。/1997年、自作の電気タンバリン等を使い音楽とダンスが融合したSOUNDANCEを創出。パイプレーションや音色、響きそのものがダンスになり、また体の動きや生体分子が音を生き生きと紡いでいく同時双方向の表現。

## 10月26日(土) 開演17時 [パフォーマンス/ライブ]

岩城里江子+長谷川六-アコーディオンと朗読、唄『あの道へ』

浜田剛爾の創作の原点である汎人類的理念を音楽に預ける岩城と、浜田剛爾と同時代を過ごした長谷川六のコラボ。

岩城里江子：フロムエーに勤務していたがアコーディオン演奏家の道に。猛勉強の末、メコン河の流れなど自然からのインスピレーションでファーストソロアルバム「O-KA-E-RI」リリース。現在各所で演奏。

長谷川六：唄歴は1975年に新宿モーツァルトサロンでコンサートを開催、萩原朔美作詞、野口実作曲など6曲のオリジナル曲をもち、のちジャック・ブレール祭などに出演。ダンスワーク編集長、ダンス批評。

## 10月27日(日) 開演15時 [パフォーマンス/ライブ]

富士栄秀也パフォーマンス『当日は、全身黒か白オンリーの服装でお越してください。』

出演：富士栄秀也(ヴォイスパフォーマンス)、seido(音具)、坂巻裕一(ペイント)、三浦宏予(パフォーマンス)

意味のある物が、ランダムに積み重なることにより、意味を無くしていく。別名を付けるならば、「音の森~otonomori~」。出演者はパフォーマンス界で感覚を共有するもの少ない異端児・富士栄に対して、自ら「似ている」と言うseido氏との初共演。デザイナーであり、今年は、書家として絵描きとして富士栄との共演の続く坂巻裕一氏。昨年秋に、初めてダンスを目撃、以来、トルソとしての出演を望んでいた、役者、パフォーマーの三浦宏予氏。そして、身体表現者としての声を追求し、目立つのと同じくらい裏方の大好きなネイキッド・ヴォイス、富士栄秀也。

## 10月27日(日) 開演17時 [パフォーマンス/ライブ]

川口隆夫パフォーマンス『エースをねらえ!-ザ・パフォーマンス』

川口隆夫：パフォーマー。大学時代よりパントマイムを基礎としたムーブメントシアターのテクニク<ミーム>を学ぶ。1990年代のダンスカンパニー「ATA DANCE」、パフォーマンスグループ「ダムタイプ」を経て、2003年以降はソロを中心に、演劇、ダンス映像、美術などの、領域を超えたパフォーマンスを展開している。

※各イベント内容・スケジュールは都合により変更になる場合がございます。  
事前にweb(<http://sites.google.com/site/pactkiten/>)にてご確認ください

## 浜田剛爾 (はまだ・ごうじ)

1944年青森市に生まれる。本名：浜田郷。父は画家浜田英一。  
1968年東京藝術大学彫刻科卒業  
2011年3月、国際芸術センター青森館長を任期満了にて退任。東京都在住。  
(パフォーマンス歴)  
1972年ベルリンの《嘆きの壁》でパフォーマンス活動を開始。日本におけるパフォーマンス・アート先駆者の一人。  
1971年~81年にかけて様々なジャンルのアーティストを組織した「パフォーマンス・シリーズ」をプロデュース。  
'80年代に入り「自分史」(家族の歴史)を基本構成とした“遺伝子”シリーズのソロ作品活動を展開。パフォーマンス論も多数発表する。各種のアートプロジェクトや国際展のプロデュースを数多く展開。北方少数民族のウエルタ(ウィルタ)族(樺太中北部周辺)、オーストラリアのアボリジニ、カナダのハイダ族など少数民族の研究も行う。

主催：東京パフォーミングアーツ協議会/PACT  
<http://sites.google.com/site/pactkiten/> <https://www.facebook.com/arts.kiten/>  
浜田剛爾展企画委員：今井蒼泉、長谷川六、矢尾伸哉  
協力：島田瑠里、栗津デザイン室、東京ダンス機構(TOKYO SCENE 主催)  
表面写真：矢尾伸哉 チラシデザイン：edit/real

浜田剛爾展 問い合わせ先：  
tel: 090-8031-4763 (広報担当；今井)  
e-mail: pact.kiten@gmail.com

**.kiten**  
〒162-0801  
東京都港区東陽4-7-10  
東陽町ハイホーム A-121号  
(tel: 090-8031-4763 (今井/PACT))

東京メトロ東西線 東陽町駅より徒歩5分。4番出口を出たらすぐ左折、「東陽町駅自転車駐車場」の看板のすぐ先を左折。次に車道に出たら左折、右手のグランヒルズ東陽町がとぎれた角を右折。左手に平屋建ての飲食店が並ぶ向かい側の、白い外壁に赤いラインがアクセントのビルA棟エントランスより中に入り直進。管理人室や自販機、エレベータ前を通り抜け、とんとんと奥に進み、駐車を左手に見て突き当たりの121号室。